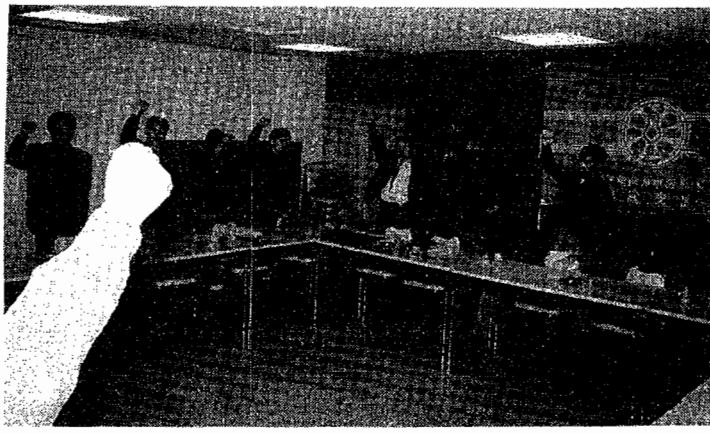


月刊 千葉動力車



総武支部は、十二月六日、第七回定期大会を千葉市なのはなクラブにおいて開催し、来年戦後五十周年を重大な歴史の節目として認識し、腹をすえてたたかうことを意志統一した。

大会は、岩瀬君を議長に選出した後、長田支部長が一年間の組合員の奮闘に心のこもったお礼を述べたあと「強制配転を一刻も早く打開するため団結をさらに打ち固めよう。解雇撤回、反戦・政治反動を阻止していくためにも水野、中江両氏の勝利をたたかいたい」と強く訴え出席も拍手で応えた。

怒りも団結強さへ 原職復帰も 長田支部長先陣に

来賓には、中野委員長、田中書記長、そして水野さんが駆け付け「忘年会」までの最後まで皆と和気合い合いと歓談し、勝利を誓いあった。

運動方針は、吉野書記長が提案し、最後に「来年はいろいろな意味で重大な年です。決意も新にしてがんばろう」と訴え、全員一致で方針を採択した。

主な意見

◆ 東船橋JC店に代表されているが、利用客は急速に増加しているにもかかわらず、要員等全く現状に対応出来ない状態をつづけている。当局の無為無策に激しい怒りをおぼえる。「改善」を強く要求しよう。

◆ 新木駅の特改について夜間、周辺に民家すら無い中、防犯上危険このうえ無い、駅長に申し入れても、なしのつぶてである。団交で強く申し入れよう。(※)

◆ 酔客などによる暴行事件の多発に対する当局の無策、無責任に怒りをこめた発言が多く、出席者から出された。

◆ 強制配転の原職復帰の課題は、もうこれ以上ガマンの限度をこえている。取り組みをつよめよう。……等々、率直な意見

JR貨物 年末手当 格差強行 徹底弾劾する

JR貨物会社は、一二月七日、九四年末手当について「基準内賃金の二・六ヵ月分」という、格差低額での支払いを強行した。断じて許すことが出来ない。貨物会社は、「分割・民営化」の三年後から一時金に格差を強制し、九三年度に続きまたも東日本との格差は、〇・六五ヵ月

が出され団交に反映させることが確認された。

新役員体制

役職名	氏名	年令
支部長	長田 敏之	三六
副々	高野 隆	五〇
々	関 一夫	三六
書記長	吉野 幸成	四五
々次長	杉本 則夫	三五
執行員	大塚 明	四四
々	岡安 正人	三七

川田伸夫君を追悼する



私達は、十一月九日に開催した第一七回支部定期大会で闘う方針を決定し、新たな決意を誓いあった矢先の十一月二三日、突然川田くんの訃報に接し、未だ信じることができません。川田くんは、一九七八年に千葉鉄道管理局新小岩機関区に就職して以来、車両係、列車係を経て車両技術係として、日夜輸送業務の第一線で活躍してきました。また、国鉄就職と同時に、国鉄動力車労働組合に加入、一九七九年の動力車結成にも参加し、国鉄「分割・民営化」という未曾有の嵐の中で支部執行委員を務め、一九八九年以降新小岩支部書記次長として連日疲れを知らないバイタリティで支部の先頭で闘いぬいてきたのです。川田くんは、心優しく、責任感も強く、先輩や同僚はもとより後輩からも慕われ、また、地域の仲間からも信頼を集め、仕事はもちろん組合運動においても将来を嘱望された折しも折り、突然の逝去は誠に残念でなりません。私達は、川田くんが持てる力の全てを傾けて立ち向かったその遺志を引き継ぐとともに、残されたご家族を支え、支部組合員全員の団結さらに打ち固めて闘いぬく所存です。心よりご冥福をお祈りします。

動労千葉新小岩支部 執行委員長 柴崎良夫